

ウラジオストク滞在に関する報告について（1月分）

1. ロシア語学校について

極東連邦大学は1月9日から通常通りの授業が始まりました。新年を実家で過ごす学生が多く、9日にはまだウラジオストクに戻ってきていない学生もおり、授業が始まったばかりの頃は校舎内が閑散としていましたが、中旬にもなるといつも通りの活気を取り戻しました。また、冬休みとして2週間ほど休暇をとる先生もおり、時折授業の担当教員が変更されたりします。

2月には新たに多くの留学生が入学してくるようで、大学事務局で悪戦苦闘する新入生やその対応におわれる先生をよく目にします。

2. ウラジオストク市内の状況について

・街の様子

12月31日の深夜から1月1日にかけて、盛大に新年が祝われました。ロシアでは新年に花火を上げることが一般的で、個人で購入した花火を家の前で打ちあげる人も多く、夜中の3時ごろまで花火の音が聞こえていました。

ウラジオストク市内の中央広場もイルミネーション等が立ち並び、とてもきれいでした。中央広場では大きなモミの木が毎年設置され、その他の催し物については年によって違うそうです。今年は、新年やクリスマス用のグッズを売っている出店が立ち並び、子供用のスケートリンクが設営されていました。

ロシア正教ではヨーロッパ諸国とは異なり、ユリウス暦を今でも採用しているため、クリスマスは1月7日になります。クリスマスはロシアの人たちにとって大事な行事の一つで、家族や友達同士でプレゼントを贈りあいます。街中ではサンタクロースを見ることもありました。



写真1：中央広場モミの木



写真2：中央広場イルミネーション

・治安状況

1月23日のウラジオストクの報道によると、市内や近郊の複数の学校、商業施設及び官公庁に爆弾を仕掛けた旨の予告メールが送られ、避難を余儀なくされた人もいました。前日にはカムチャッカ地方でも同様の爆破予告事件があったようです。幸いにも実際に爆破があったという情報はありません。

また、在留邦人が市内においてケガのため当地の病院で治療を受けるという事案が発生しました。本人が海外保険証書の内容をすぐに提示できたため、速やかに治療を受けることができたとのことです。

・気 候

1月になり、寒さが厳しくなってきました。海もほぼ凍っており、氷の上を歩いて散歩したり、車で走ったりすることもできる場所もあります。日本のワカサギ釣りのように、氷に穴を空けて釣りを楽しむ人も見受けられます。しかし、氷の薄い場所もあるので注意が必要です。実際に、氷が割れ海に落ちて凍死してしまったケースも過去にはあるそうです。



写真3：見えている雪は全て凍った海です

3. ウラジオストクでの行事について

●新年賀詞交換会（18日）

ウラジオストク市郊外の総領事公邸にて新年賀詞交換会が行われました。ウラジオストク市内に出店している日本居酒屋の料理や、日本のお酒が出されており、新年に日本に帰国できなかった参加者の方々も喜んでいました。

ウラジオストクには日本の民間企業も多く進出しています。同会では新たにウラジオストクに来られた方や、普段あまり関わることのできない方とも交流ができ、有意義なものとなりました。

●日本バレエ団「牧阿佐美バレエ団」による公演（15～16日）

「ロシアにおける日本年」事業のイベントとして、ウラジオストク市内マリンスキー劇場にて、牧阿佐美バレエ団によるバレエ公演がありました。今回演じられた演目「飛鳥」は日本の神話をモチーフにしており、竜神と竜神に愛された乙女の物語が表現されています。客席はほぼ満席で、本場のバレエを見慣れているロシアの方達も大変満足したようで、公演終了時には大きな拍手が響き渡りました。



写真4：バレエ「飛鳥」終演あいさつ